

いじめ予防等プログラムの項目および概要

第一章 いじめ問題の理解	いじめの基本的な知識	1 いじめの定義と構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法に規定された「いじめ」は、社会通念上の「いじめ」の範囲よりも広く、いじめられた児童生徒の立場に立つことが必要。</li> <li>・いじめの認知数が多い学校は、いじめやその疑いを積極的に見つけ、解消に向けた取組のスタートラインにいる学校。</li> <li>・いじめは五層構造で成り立ち、「観衆」や「傍観者」から「仲裁者」をつくるかが大切。いじめを見聞きしていない子どもに対しても、いじめの未然防止につながる働きかけが大事。</li> </ul>
		2 高知県の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの捉え方が変わったことで、認知数が増加傾向。教職員のいじめ問題に対する意識の高まりが認知件数の上昇につながっている。</li> <li>・教職員や保護者、地域住民の中には、いじめの定義について十分理解ができていない現状もある。</li> <li>・本人が苦痛を感じていなくても、客観的に見て苦痛を感じるであろう事案についてもいじめを疑い対応していく。</li> </ul>
		3 高知県いじめ防止基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「高知県いじめ基本方針」には、県民総ぐるみでいじめ問題に取り組むことを示しており、「高知県いじめ基本方針」をもとに各学校においても「学校いじめ防止基本方針」が作成されている。</li> </ul>
		4 いじめについての具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの「居場所づくり」、「絆づくり」がいじめの未然防止につながる。教育活動全体を通じた人権教育の推進が必要。</li> <li>・いじめの早期発見のためには、いじめの定義について全ての教職員の共通理解が必要。</li> <li>・早期対応、早期解消のためには、特定の教員が一人で抱え込まず、組織で対応することが重要である。</li> </ul>

第二章 地域研修プログラム 教員・保護者	いじめに関する知識の学び合い	保護者用研修プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが安心して過ごせる学校・家庭づくり</li> <li>・いじめの定義、定義の変遷について</li> <li>・いじめの認知件数の推移といじめ認知の考え方→いじめはどの学校でもどの子どもにも起こり得る</li> <li>・いじめの五層構造→子どもたちが安心して過ごせる学校に</li> <li>・高知県いじめ防止基本方針「県民総ぐるみでいじめ問題に取り組む」→私たち大人ができることは</li> </ul>
		地域用研修プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが安心して過ごせる学校・地域づくり</li> <li>・いじめ問題に関する基本的なこと→いじめの定義、認知 いじめはどの学校、どの子どもにも起こり得る</li> <li>・子どもたちとのコミュニケーションのポイント→話しやすい雰囲気づくり、子どもへの声かけの技等</li> <li>・いじめの未然防止のための子どもへの関わり方→子どもの気になるサイン、コミュニティスクールなどの取組例</li> </ul>
		教員用研修プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題の構造の理解→いじめの定義、積極的な認知、いじめの五層構造</li> <li>・いじめを早期発見するために→早期発見の基本、アンケートや教育相談の活用、いじめに気づく視点</li> <li>・組織的ないじめへの対応のあり方→いじめが起きた時の対応、いじめ重大事態について</li> <li>・いじめ対応を通じた事例</li> </ul>

プログラム実施者からの意見等	
○いじめの定義や認知の考え方が分かり学校の取組が理解できた。	○子どもたちとの関わりがいじめ防止には大事で、コミュニケーションのポイントについても整理されて分かりやすかった。
○地域の中で、子どもの変化に気づき注意する視点が分かりやすかった。	○今後の学校との連携や子どもへの関わり必要性を感じることができた。
●いじめの事例がもう少しあるとわかりやすい。→いじめの定義の理解が図られるよういじめ事例を追加。	●研修の中でもう少し参加者同士で話し合う場があればよい。→子どもの気になるサインにはどんなものがあるか意見交換できるワークを追加。
○いじめの定義について分かりやすく示されており、校内でのいじめ認知数の増加につながると感じた。	○いじめを認知した後の具体的な対応について詳細に記載されていて良かった。
○いじめの早期発見のための手立てを全教員で共有できて良かった。	●いじめの未然防止について詳しく示してほしい。

第三章 いじめ予防等学習プログラム	子どもたちへの活用	1 いじめ予防を目的とした個別学習プログラム 〔資料2-5〕	<p>【いじめ理解学習プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての児童生徒が安心して学校生活を送ることができる基盤づくりのために必要ないじめについての知識・理解を目的とした内容</li> </ul> <p>【自己肯定感育成プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての児童生徒がいじめに立ち向かうことができるようになるために、いじめを絶対にしない気持ちや自分を大切にできる力の育成を目的とした内容</li> </ul> <p>【人間関係づくりプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の学校生活ですべての児童生徒がお互いの違いを認め、支え合うために必要な人間関係力やコミュニケーション力の育成を目的とした内容</li> </ul>
		2 各教科等と関連した普遍的な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の三機能を生かした教科学習や特別活動の指導案</li> </ul>
		3 児童会・生徒会を通じた予防的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会・生徒会のこれまでの取組と子どもたちがいじめ予防に向けた主体的な取組例</li> </ul>
		4 地域との連携を通じた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と児童生徒との関わりを中心とした豊かな活動例</li> </ul>

プログラムの進捗状況	
・道徳において、いじめを扱った教材を用いた学習指導案を高知大学の道徳専門職員へ依頼。各学年1指導案(全9指導案)を作成中	
・鳴門教育大の予防教育プログラムを適用する。自己肯定感を育成するプログラムで、児童生徒の内発的やる気が上昇し、いじめに立ち向かう力や自分を大切にできる力が育成される→〔資料2-5〕	
・向社会性やソーシャルスキルについて本課が作成した活動や参考文献をもとに作成中。	
・いじめの未然防止につながる開発的・予防的な生徒指導について実践事例を作成中。	
・「高知家」児童生徒会援隊が、児童会生徒会交流集会で課題提起し、児童生徒に考えてほしいことをまとめたり、学校での主体的な取り組み方を例示して活用できるようにした内容を作成中。	
・地域が学校とつながって取り組んでいることを事例を複数載せて活用できるように作成中。	